

いつもそばに。

— 妊産婦に寄り添う ” まち ” —

頼り、助け合いながら、

いつでもどこでも安心して子どもを産み育てることができるまちづくり。

A18AB133 水谷璃子



01. 妊産婦うつ問題

妊産婦の約10%がかかるといわれている妊産婦うつ。短期間に重症化しやすく、発症時期も様々であるため、産前～産後まで継続的に妊産婦をサポートし早期発見・対応する必要がある。しかし、サポート体制や、施設はまだまだ普及しておらず改善が必要である。



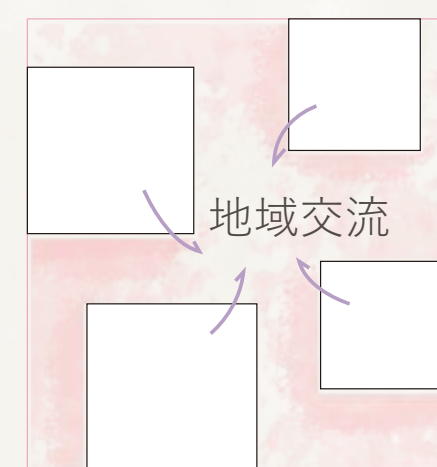
図1 妊産婦うつの症状

02. 核家族化進行による妊産婦の孤立

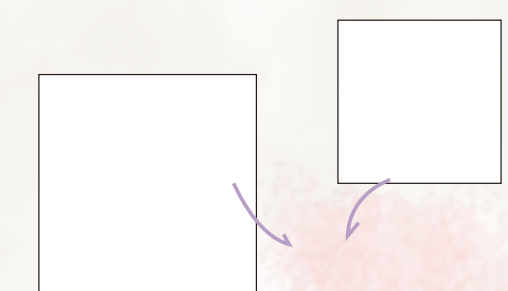
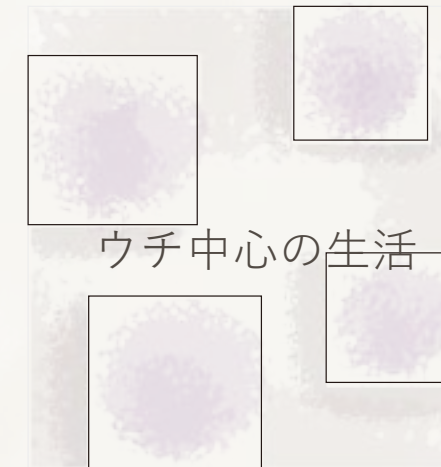
産婦うつが増加傾向にある原因の一つとして、「核家族化」があげられる。戦前～戦後にかけ私たちは繋がりを大切にし、家族だけでなくご近所さんや親戚など様々な人と親密に関わり合いながら生活してきた。

しかし、核家族化の進行に伴い、それらは希薄になり妊産婦が孤立する状況になってきている。

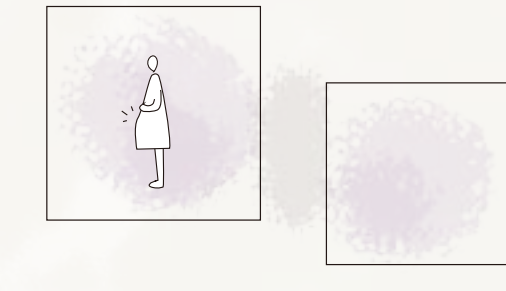
戦前～戦後



現在



ご近所さんとの助け合い



不安を抱えた妊婦の孤立

03. 空き家問題

空き家を活用した妊産婦ケアの仕組みを提案する。

空き家の問題点

・老朽化や景観の古さから、
近寄りにくい場所になってしまっている

空き家改修後

空き家の外観は残しつつ、自然を感じながら
リラックスし、交流できる場所に。

空き家活用のメリット

- ・まちに点在する空き家を活用することで
アクセスが良く通いやすい
- ・家以外に安心して頼れる場所が出来る

04. コンセプト

「いつでも頼れる、妊産婦とその家族に寄り添うまち」

妊産婦の継続的なケア + 空き家活用 + 地域交流の場



妊娠中～出産～小学校入学まで育児サポートを行う。

家以外に安心して頼れる場所ができることで妊産婦の育児負担が減り、妊産婦うつの予防につながる。また、メンタルサポートの場を多く設け、自然に癒される空間づくりを目指した。

将来的には空き家を活用した育児ケアの家が各地域に点在し、妊産婦とその家族は地域交流をしながら、共に喜び、支え合って育児ができるまちに繋がるよう願いを込めて設計した。

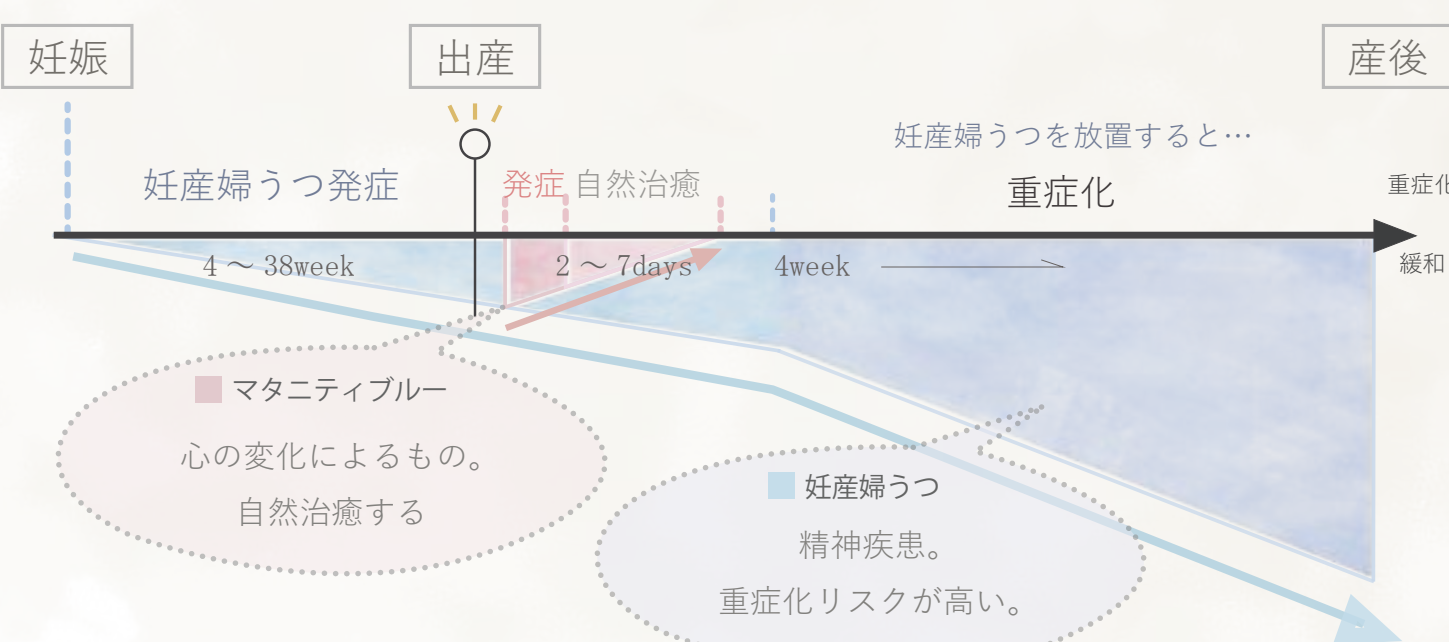


図2 マタニティブルーと妊産婦うつの発症期間の違い

北部 人口：約 3.4 万人
出生数：約 260 人

敷地：愛知県弥富市

総人口：44,151 人

用途地域：第一種住居区域

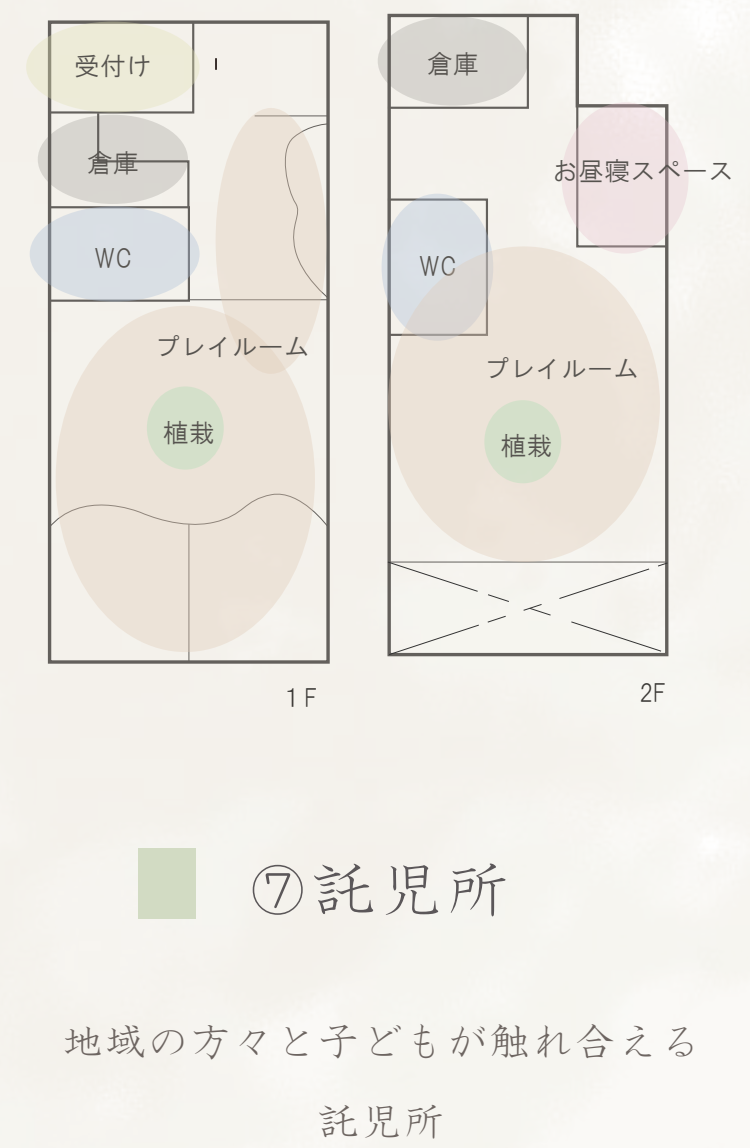
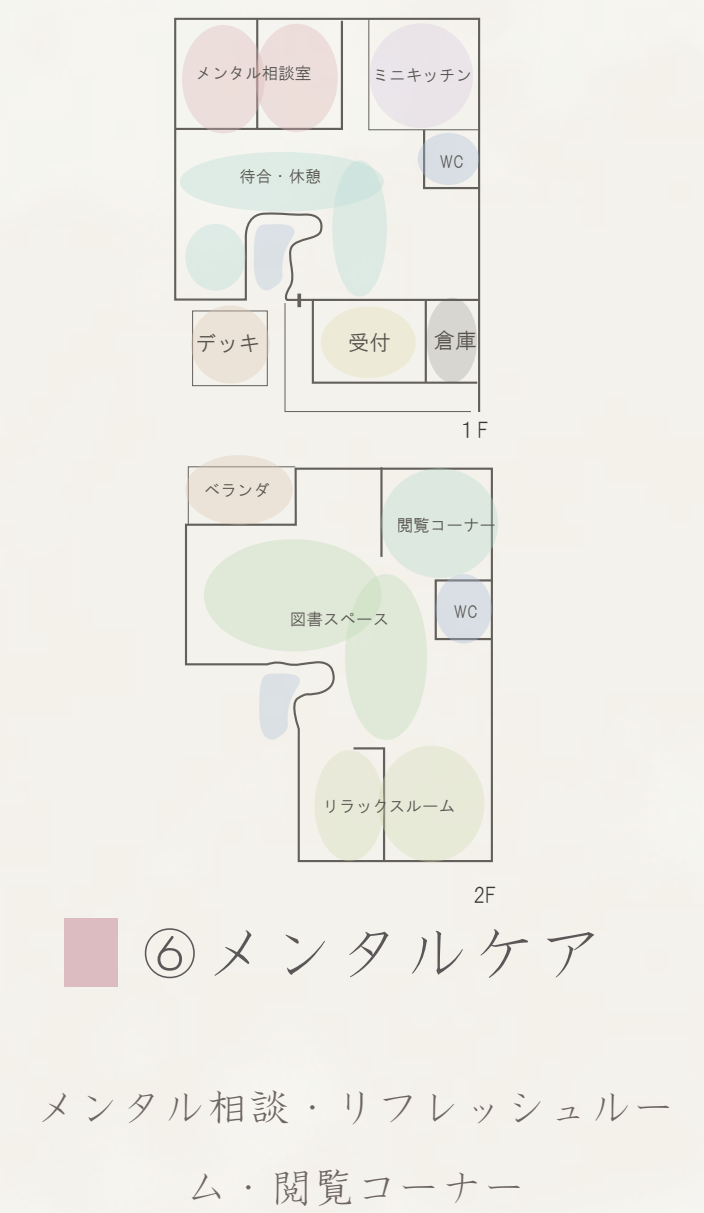
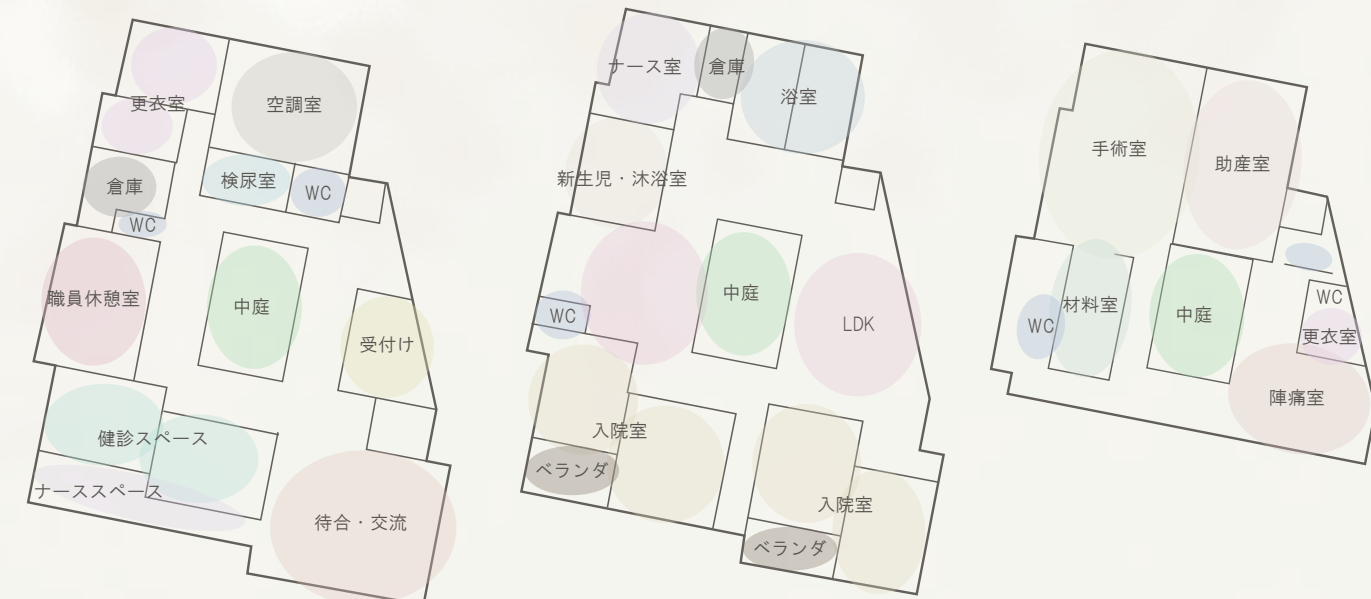
出生数：336 人（2019 年）

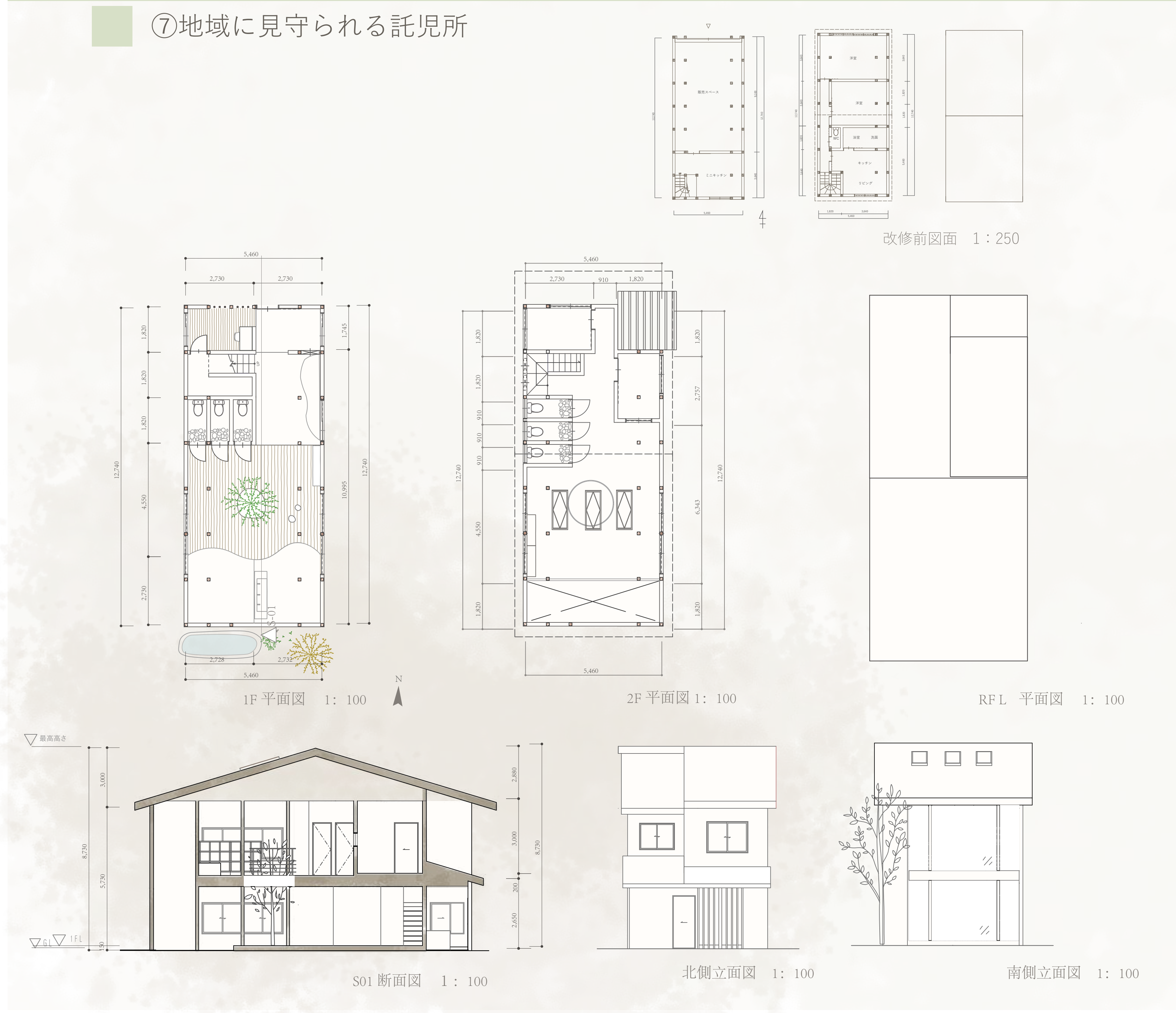
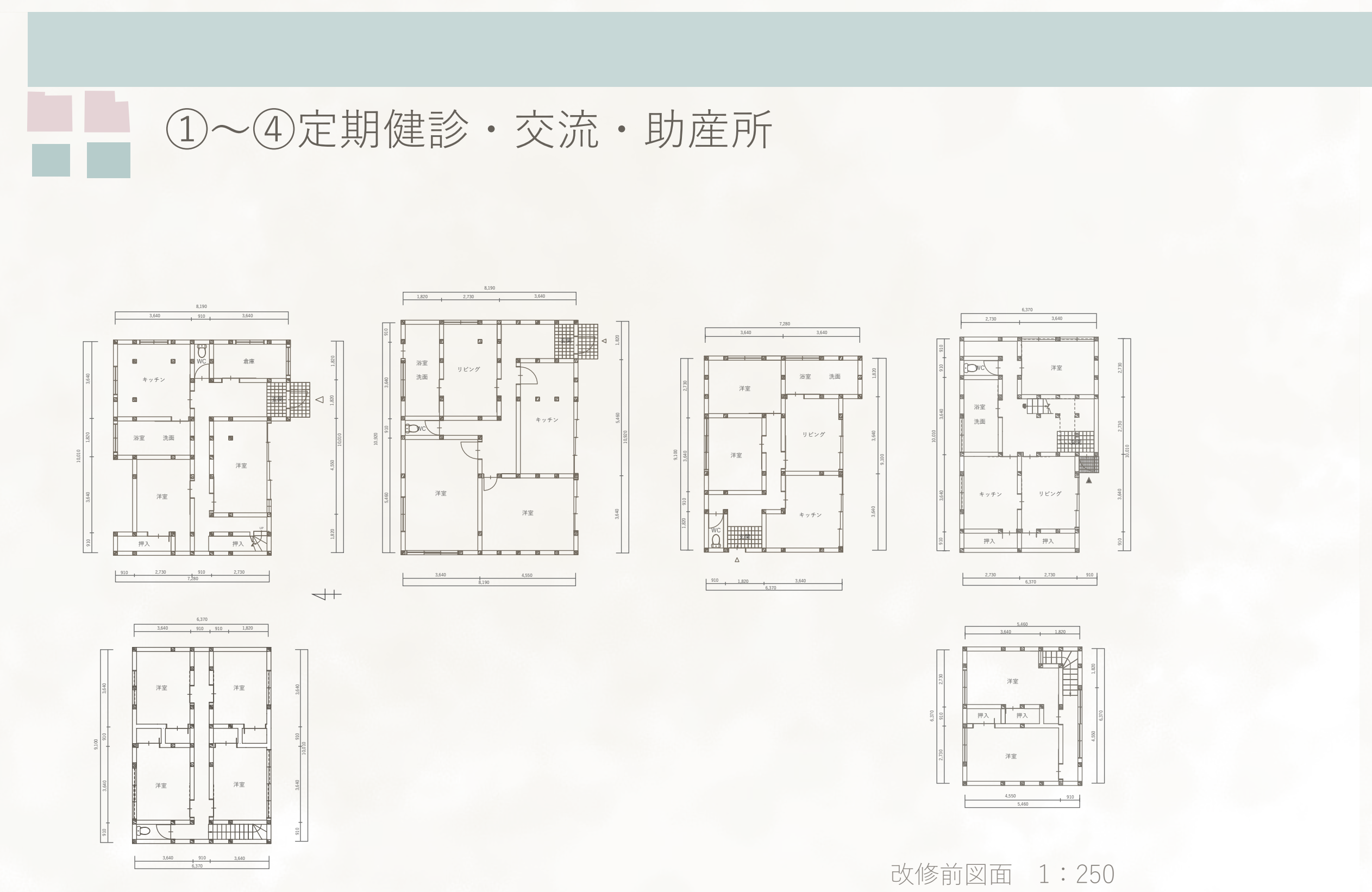
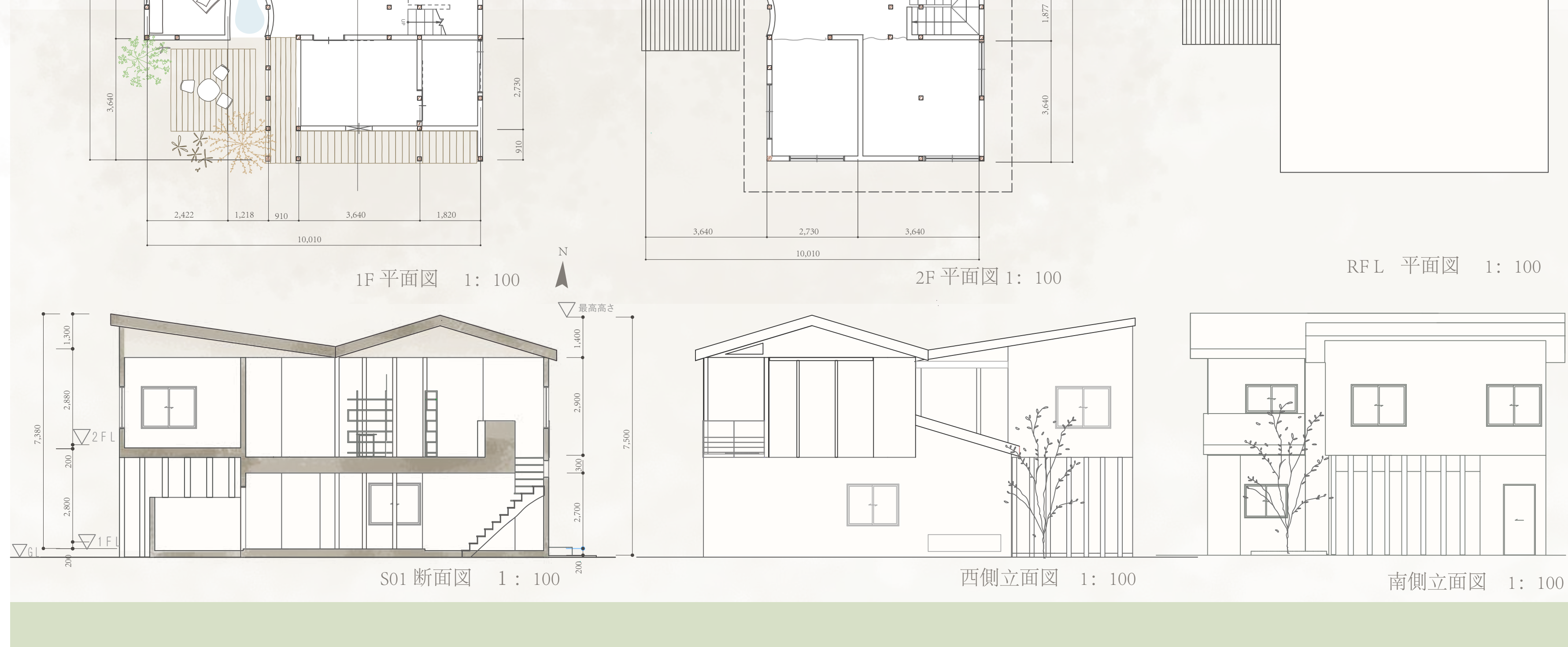
合計特殊出生数：1.50 人

↑ 愛知県弥富市地図

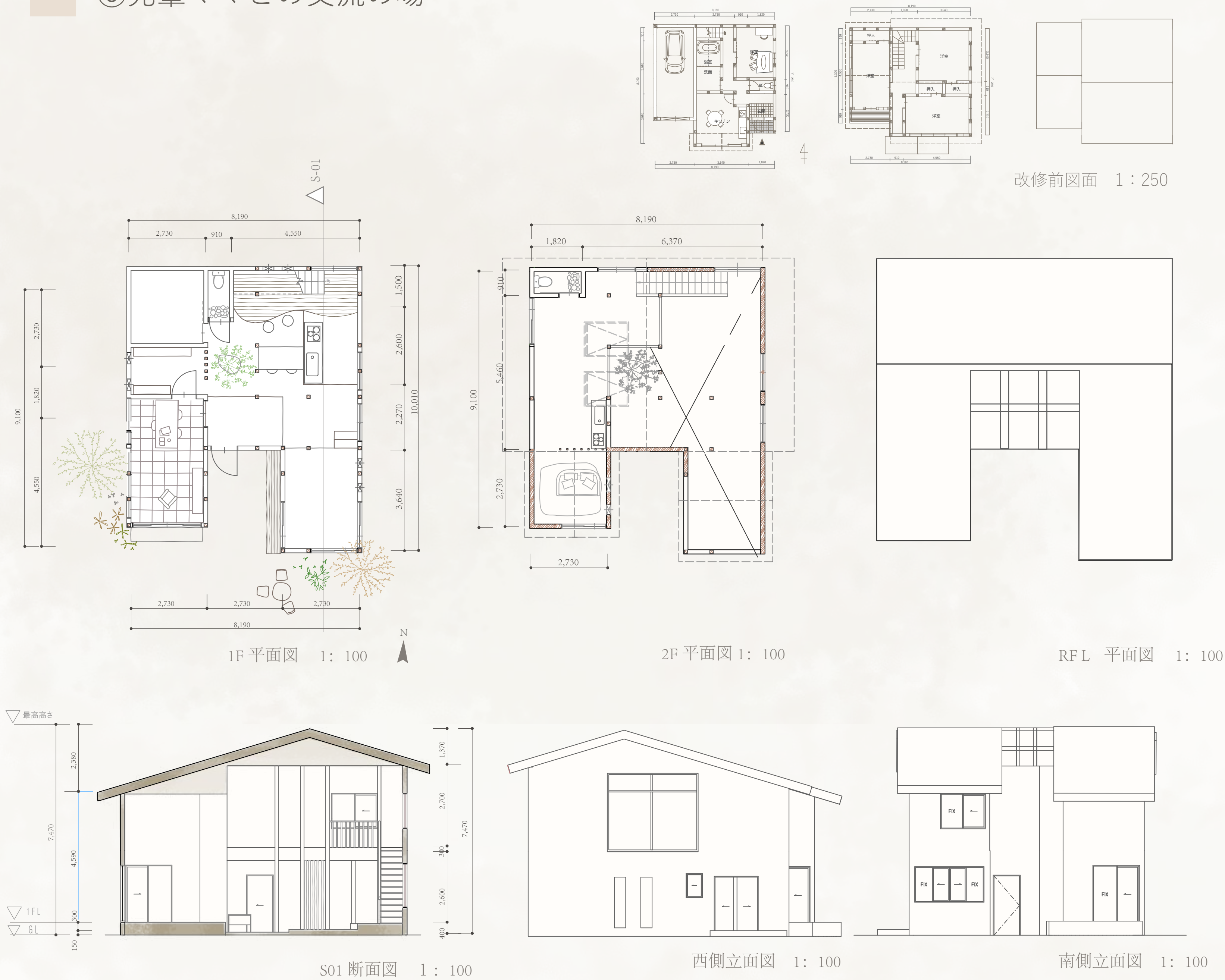
住宅街の空き家 7 軒 + 空地一箇所

建物番号	面積 (m ²)
①	125
②	117
③	90
④	63
⑤	72
⑥	67
⑦	175
A (空地)	280.25

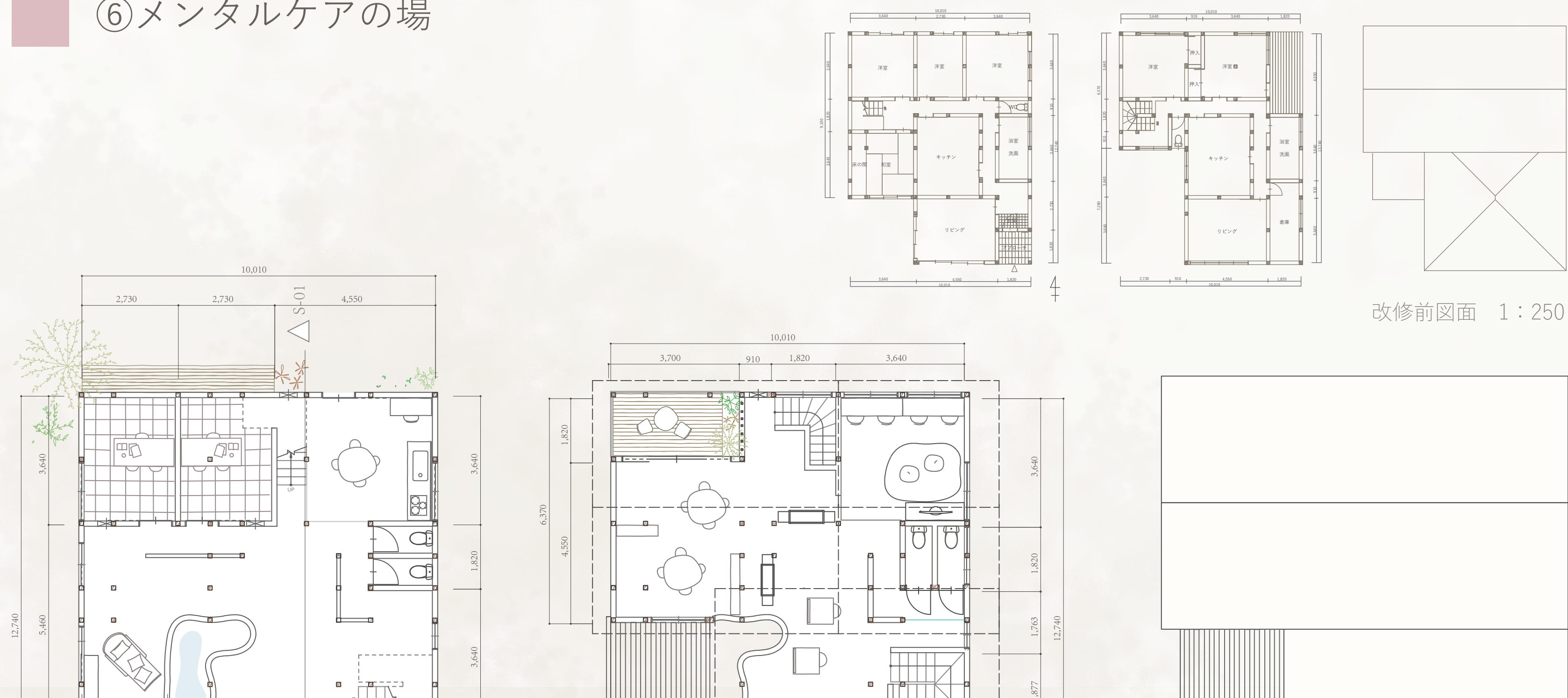




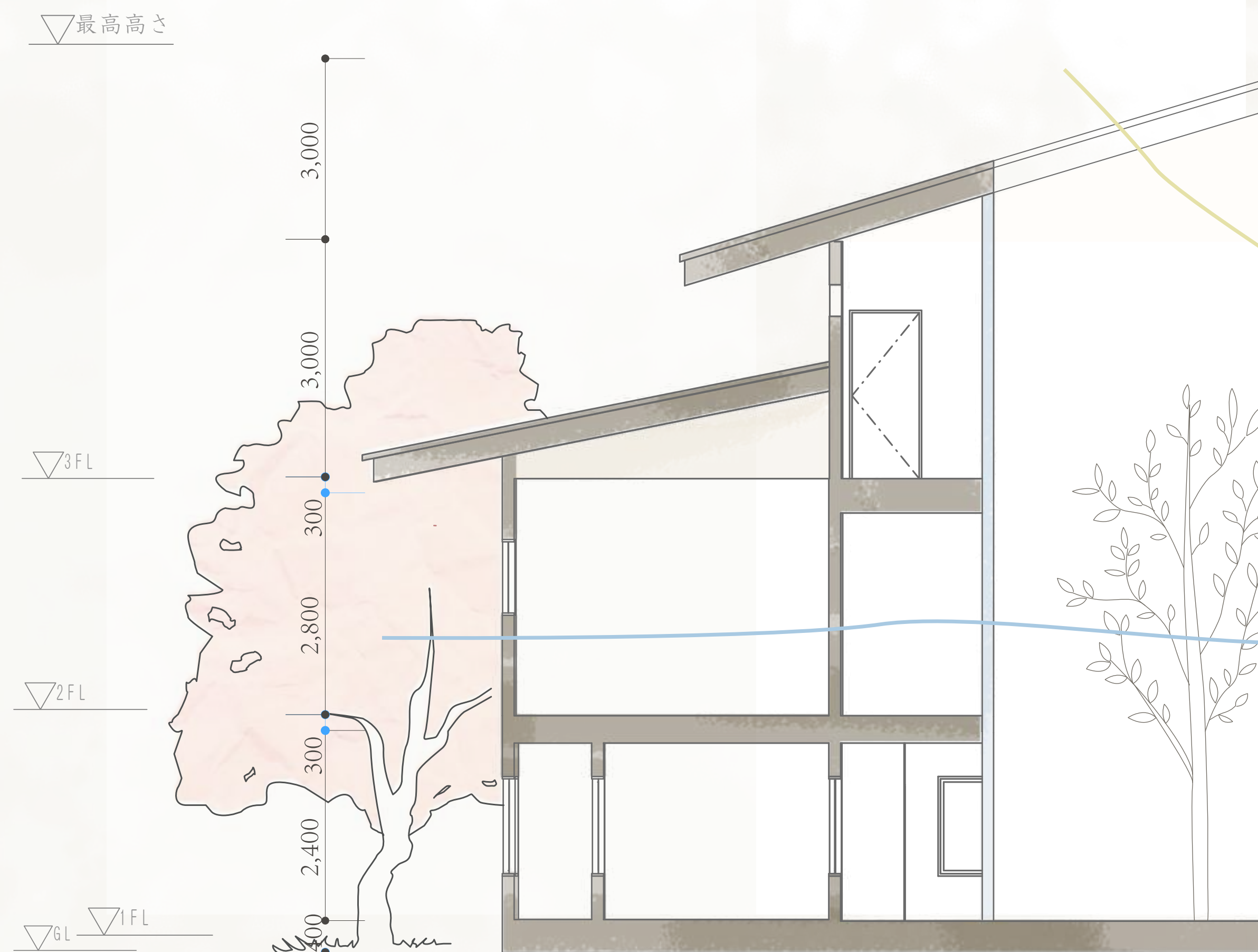
⑤先輩ママとの交流の場



⑥メンタルケアの場



A 出産・妊娠前健診

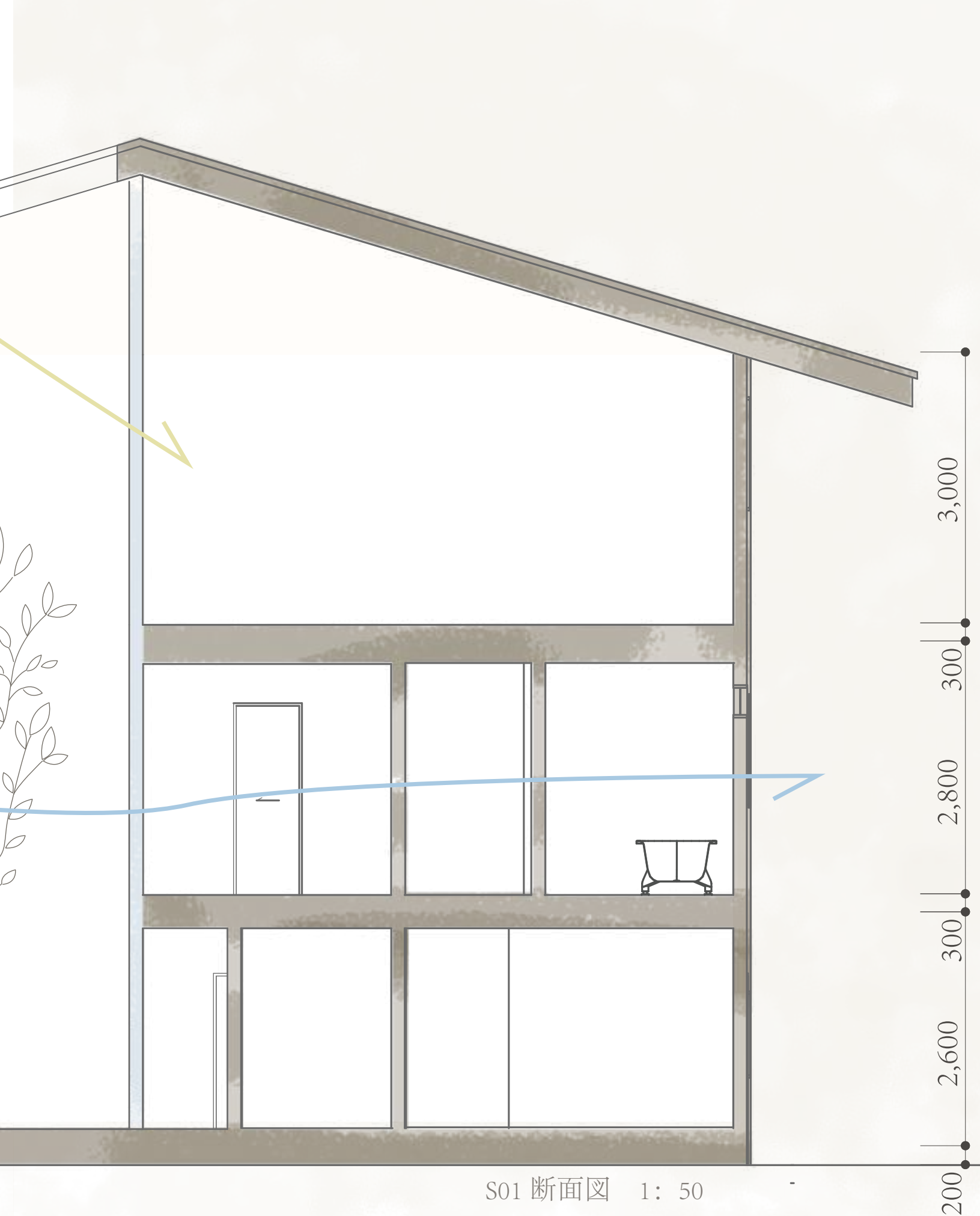




2F 平面図 1: 100

3F 平面図 1: 100

RFL 平面図 1: 100



S01 断面図 1: 50



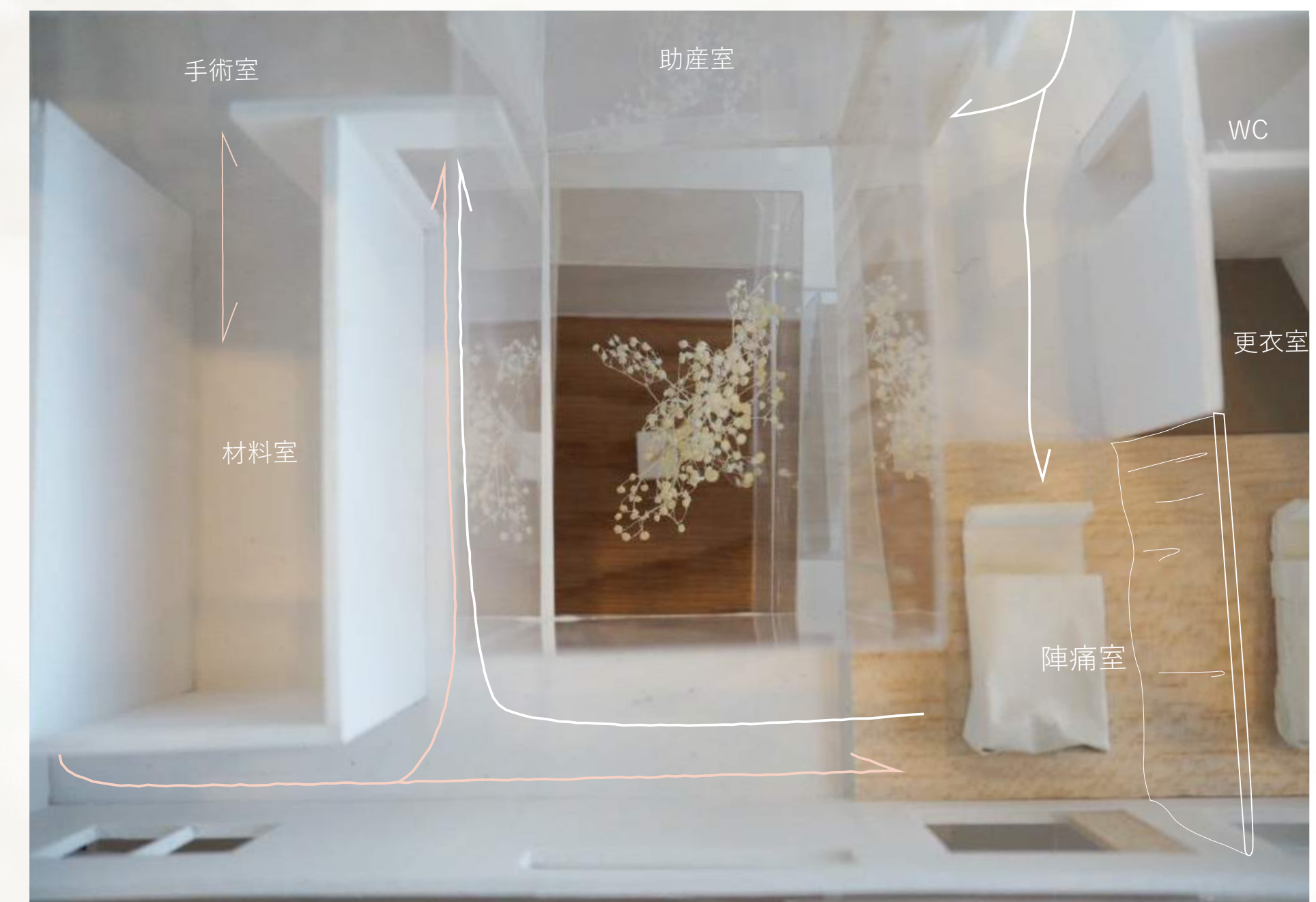
南側立面図 1: 100



東側立面図 1: 100



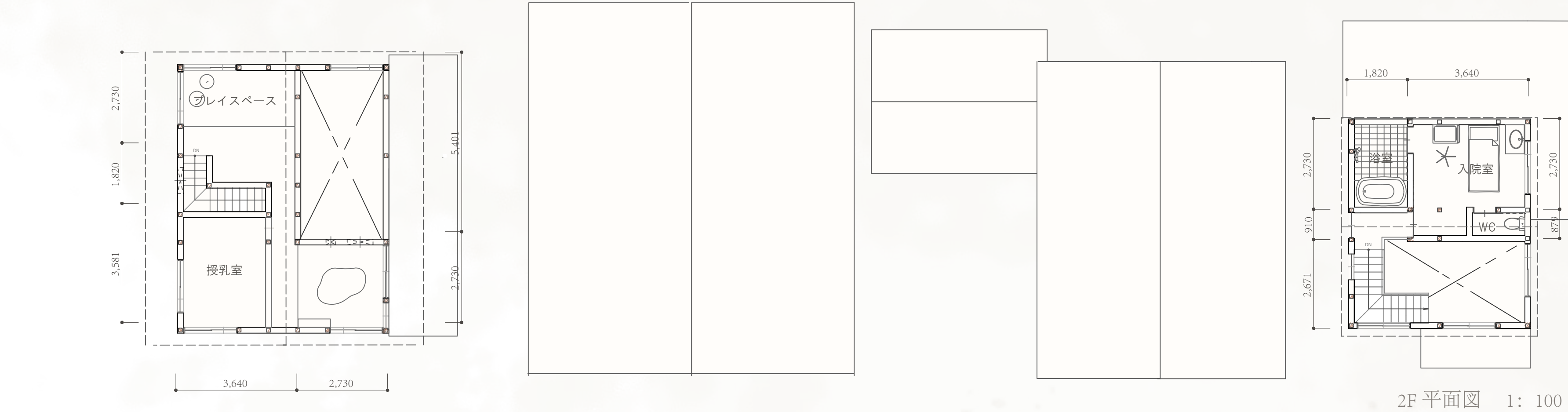
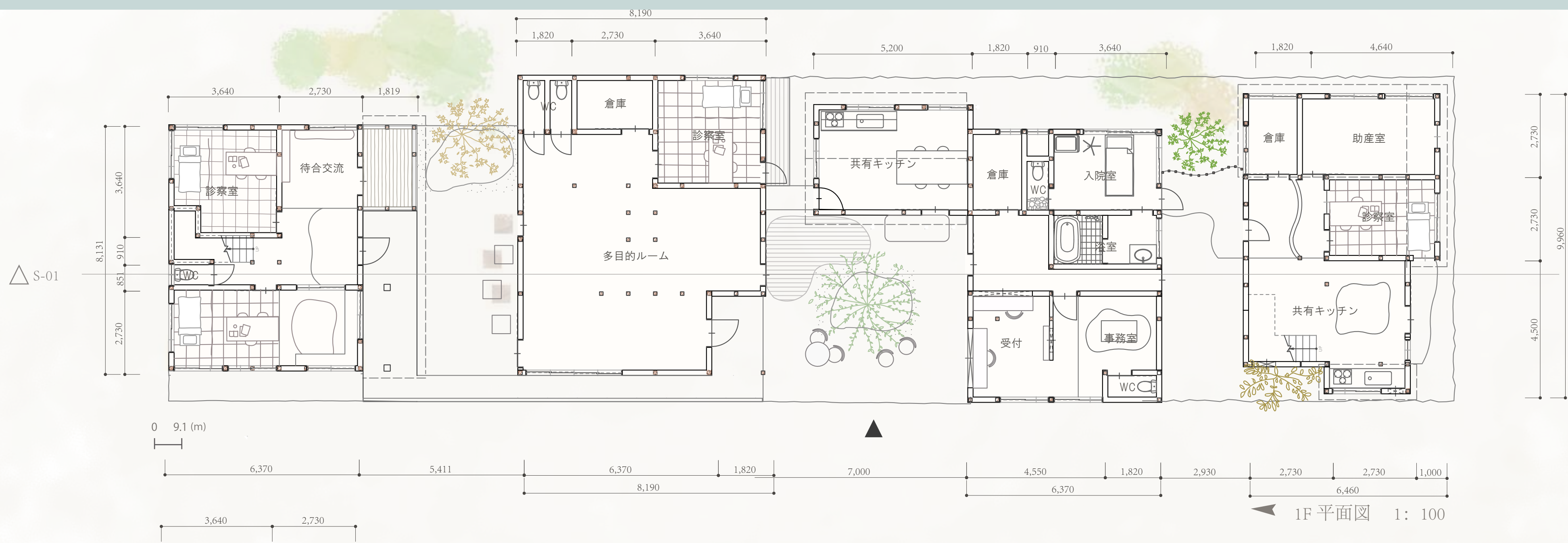
↑ A の入院室を上から見る



↑ A の3階中庭まわり



↑ A の1階待合室と桜並木



↑ ①②診察室と中庭



↑ ④の入院室



↑ エントランスの中庭